

グローバル・スコープ

自民党に高市新総裁が誕生した。「解党的出直し」をうたった総裁選挙ではあったが、どの候補者も解党的改革を提唱したわけではなく、「党の融和」を優先し、固有の主張を包み隠した。党に波風を立てない、ということであるとすれば、既得権益を打ち破り、日本の抱える困難を克服することも期待薄となる。選挙の結果は単に自民党を伝統的保守ナシヨナリズムへバランスを引き戻したということになり、これで選挙に勝てる自民党となるかは、甚だ疑問である。

自民党に高市新総裁誕生

会見する自民党の高市新総裁（東京都千代田区永田町）



あえて政策的な特徴を予測すれば、積極的財政政策、米国との同盟政策の重視、対中抑止政策、外国人規制の強化といったところ

か。このような路線を追求していくのだとすればトランプ政権は歓迎し、一層の防衛予算拡充と米国の武器購入や、対中強硬策を求めるのだろう。問題はこれが日本の国益になうのかという点である。高市新総裁も日本の国益を成就

すべく強い日本を作ることを強調している。日本が吟味しなければならぬのは、トランプ政権が民主主義的価値を重んじ、同盟国との関係を重視する従来のアメリカなのか、という点である。トランプ大統領は「自国利益を重視してアメリカを再び偉大にする」との強い姿勢の下、「取引」に走り、行動に一貫性がない。同盟国の利益の優先度は極めて低く、関税協議の例が示す通り「法の尊重」より「力の支配」に傾いている。

米と関係強化 外交に自律性を



日本総合研究所
国際戦略研究所
特別顧問
田中 均

ているロシアや中国はミットメントを薄める米国との決定的な対立のは好ましい行動では避けつつ、グローバルサウスを中心に抗米勢力の強化に力を注いでいくのだろう。日本は同盟国として米国との関係を強化するにあたって、米国に對する梃子（てこ）を強化し、米国に意見を強めていくべきだ。高市新総裁も靖国神社参拝など中国や韓国との関係を壊す行動は大局を踏まえて控えるべきなのだろう。（第2・4水曜日に掲載）